

ののほな

(野の花館だより 2008/夏号 / No.48)

野の花館の今年の活動は表記のように独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」の助成を得て、この活動を行っていきます。郷土の料理や文化を介した世代間交流による子育て支援です。

うっそうと茂る竹林の門をくぐるとひろ - い土の庭・・・どっしりとした柱、自然のままのカーブを生かして天井を貫く大きな梁。その割れ目から松やにをにじませて・・・「生命」の確かさを訴えているようでもあり、その全てが、長い間、いろりの煙にいぶされて黒光りしている・・・
みどりの木陰に張り出した大きな縁側・・・

そんな場所で子ども達とあそんでみませんか？

活動予定

5月3日 野の花館まつり

6月7日(土) 郷土料理教室「冷や汁他」

7月19日(土)竹細工教室「水鉄砲を作って遊ぼう」

8月24日(日)平和を考える集い08 朗読(月光の夏)木内里美

9月 染色教室(草木染体験)

10月 みそづくり

11月3日 いろりびらき

11月16日 アイルランド音楽の夕べ

12月 お正月飾り作り

1月・2月 宮崎の民話

情報誌発行、野の花館土間手すり設置など

世代を超えた交流は青少年の健全育成に必要な視点であり、地域が求めている課題の一つでもあります。自然と歴史観豊かな(野の花館)を高年齢子ども達の集りやすい場所として開放しコミュニティの楽しさを体験します。まずは郷土料理作り体験！6月7日(土)10:00～

野の花館“ふるさと”ふれあい子育て支援事業・第2回

郷土料理教室・・・冷や汁を作ります。 講師・黒木淑子さん
宮崎県の郷土料理として、暑い夏の日、青じその葉、きゅうり、ねぎ等、こまかくきざみ、冷たい井戸水、冷蔵庫で冷やしたみそ汁を麦飯にかける。この様な簡単な食事として親しまれてきましたが、人間が働くことにすべての時間をついやしていた時代、ご飯をたべる時間を惜しんでは釜の冷や飯、朝のみそ汁をぶっかけ、早々に食べ野良仕事にでていたといいます。それでいてしっかり食事を取っていたわけで身体も丈夫だったのです。今はそのことをより工夫して栄養を考え魅力的な料理、郷土の自慢料理として静かなブームとなったようです。

野の花館ではイリコ、白ゴマ、みそ(野の花館特製)をたっぷり使い、ゼイタクな？みそだまを作り、常備しておきます。何にないときにもみそ玉を冷や水でとかし氷をうかべ具を入れるだけで夏のおもてなしになります。自分で1度作ってみると手作り冷や汁のとりこになりますよ。

黒木淑子

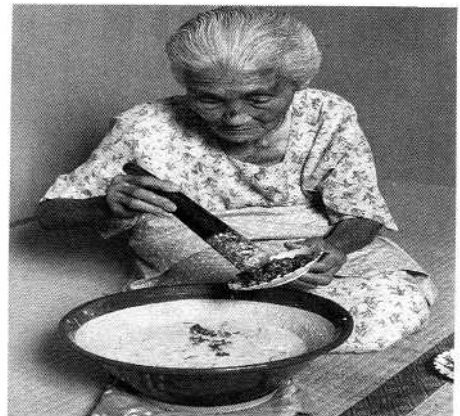
A.冷や汁 宮崎の郷土料理【材料は30人分】

暑い夏の日、多忙な農作業時の食事としてそれぞれの家庭の味が個性的…。早々と済ませるために青じそ、きゅうり、ねぎを細かく刻み、冷たい井戸水で冷やした味噌汁とともにご飯にかける。

【作り方】イリコの頭と腸を取り除き、乾煎りする。すり鉢でイリコをよく摺り、ゴマをいれ更によく摺り、次に味噌を入れてよくすり合わせる。これを鍋の底の広いもので焦げ目をつけながらゆっくり焼く。

きゅうり、青じそ、小ねぎ、豆腐を刻む。

【材料】 イリコ100g2袋 ごま100g
みそ1kg、きゅうり、青じそ、小ねぎ



夏の朝の冷や汁づくり

火ぼかし魚の身、すりごま、味噌、豆腐、きゅうりの薄切り、ねぎ、青じそ、しょうがなどをつぎつぎ加えていく。

子ども達に残したい郷土の味！

(5月3日の野の花館まつり(春を食べる会)にも多くの感想が寄せられました。)

新毎年楽しみにしている野の花館まつりに、今年も参加しました。当日朝9時に昼食づくりのお手伝いをしようと出掛けてみるともう沢山の人達が働いていました。このように自主的に働いてくださる人達に、野の花館が支えられているのだとつくづく思いました。

炊事場には人数が揃っていたので、てんぷらにする野草を周囲の豊かな自然の中で探すことにしました。参加者達と子供の頃にかえてヨメナ、ミツバ、ヨモギ等、新芽の美味しいところを選んで摘みました。

昼食に用意した50人分の寿しの盛り合わせは、すぐに品切れになり黒木さんの特製のひや汁と揚げたての野草のてんぷらも子供達に好評で揚げるそばから皆のお腹に収まっていきました。

近年日本の食料自給率の低下が叫ばれていますが、せめて宮崎県の自然を子供や孫に残していかなければとの思いを新たにしました。 藤田 規子

自然の恵みに舌鼓

高鍋町の特定非営利活動法人(NPO法人)野の花館は、第十四回野の花館まつりを三日開いた。有料イベントだが、町内外から多くの家族連れが訪れ、人形劇や紙芝居など盛りだくさんの内容を満喫。セリやヨモギの天ぷらなど、自然の恵みたっぷりの昼食に舌鼓を打った。

町内のさつき会は、児童福祉の先駆者・石井十次の幼少時代の逸話を人形劇で紹介。小林市の劇団おやまは、紙芝居「したきりすすめ」などを演じ、客席の子もたちは熱心に見入っていた。このほか、読み聞かせやフオークダンス、コンサートなど多彩なプログラムが続いた。

昼食は、桑や柿の葉、ゼンマイなどの天ぷら、

高鍋で野の花館まつり

ちらしずし、冷や汁、セリの白あえなど季節感あふれる献立で提供。調理した一人、黒木淑子さん(左)は「人間は自然に生かされていることを食べ物で実感してもらえたらうれしいと話していた。めいとおいを連れ、宮崎市から訪れた辰身雄作さん(右)は「子どもたちに思いやりの心を持ってほしくて来た。熱心に紙芝居を見ていたので少しは伝わったかな」と楽しそうに笑っていた。



自然の恵みたっぷりの昼食や人形劇などを楽しんだ第十四回野の花館まつり

野の花館まつり 5月3日(憲法記念日)10時~16時

新緑の季節！今年の舞台は…？

人形劇「十次と縄帯」さつき会・石井十次の
有名な子ども時代のお話。

大型紙芝居「したきりすずめ」劇団おやま

民話語り！！「わしにさらわれた子ども」間妙子さん
春を食べる会…山菜すし、天ぷら、白和え、冷や汁など…

高鍋フォークダンス愛好会「フォークダンス」



「子どもに伝える日本国憲法」

“ことばで遊ぼう！！”濱崎けい子企画

特別企画 15時~16時

(ミール)ヴァイオリンとピアノとお話によるコンサート

演奏曲目

モーツァルト……ヴァイオリンソナタ ト長調 KV.301

ドヴォルザーク……スラヴ舞曲 第2番

クライスラ……GYPSY CAPRICE

ドビュッシ……小さな黒人

ベートーヴェン……ヴァイオリンソナタ
「春」より 第1楽章

ラフマニノフ……V.R.のポルカ

世界の春の歌メドレ -



(まつり感想)



家族3人で野の花館まつりに参加して楽しかったです。6歳の子供は同じぐらいの年齢の子供たちと野の花館の環境を楽しんだり、おいしくて体に食事をしたり、折り紙箱入りのサクランボを食べたり、文化度の高い雰囲気と触れ合ったり、して楽しかったようでした。ママたちも、のんびりと話し合っ、読みきかせや音楽の雰囲気を楽しみながら交流を深めました。県内の各地からの家族と、またはブラジル人、フランス人やアメリカ人と、絵本の表現し方、音楽のすばらしさ、子育て、ゲーム、手話などの話が盛り上がってますます仲良くなったような気がします。あっという間に終わり時間の4時になりましたけど子供たちの遊び、大人たちのしゃべりがなかなか切のいいところがなくて5時になってやっと駐車所に移して、またちょっと遊びました。

スモール・ブライアン

お天気にも恵まれた今年の、野の花館まつり、親子で楽しみました。いつものことですが、野の花館に行くというとそれだけで興奮する我が家の子ども達。今年も何日も前から、野の花館に行ったら何をしようかと楽しみにしていました。劇団おやまの出し物は、今回子ども達の紙芝居でしたので、私はずっと裏方をさせていただきました。いつもと配役が変わった事や練習不足もあり、満足のいくではなかったという子ども達でしたが、良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。野草の天ぷらの手伝いをさせていただいた私は、いつもながら、珍しい食材にふれ、楽しい時間でした。野の花館と出会ってから、毎年我が家でも野草がこの時季は食卓を賑わせるようになりました。黒木さんの受け売りですが、「この時季に勝手に生えてきたものを食べると、一年中元気に過ごせる」気がしています。一年分の元気を頂き、たっぷり楽しんだ帰路の車中は、皆満足げでした。また来年、来年度分の元気を頂きに上がります！

大山 磨佐恵

今回、野の花館まつりで残念だったのは、お昼の御膳を食べ損ねたこと！遅い時間に到着してしまい、すでに売り切れていたのには参りました…。そんな気持ちにさせる野の花御膳の魅力ってなんだろう。手作りだから体が元気になる？ なつかしい味が郷愁を誘う？ なにか違うなあ。食べると笑顔がこぼれてしまう。舌で味わっているはずなのに、心にピンピンくる。それって、命に刺激をもらっているということなのかなと思う。「地味なのに刺激的」それはきっと作り手の成せるワザ。そんなワザを感じられたら、生きる力ってどんどんパワーアップするんだろうな。



竹嶋 道代

第9期野の花館定期総会

5月11日(日)

野の花館2008年度定期総会を、

5月11日(日)14時から野の花館のおお
広間で行いました。

運営会員30名(定足数15名)のうち
出席者14名、委任状出席8名を合わせて
22名の出席となりました。

議長に伊藤心平、議事録署名人に
黒木淑子、則松和恵、書記に則松節男を選出しました。
開会に辺り、伊藤代表が「・・・新しいお仲間も増え、ますます楽しい活動を続けたい!!」と挨拶をし
て議案審議が始まりました。議案審議の前に初めての方もいらっしゃるの
で自己紹介から入りました。(新メンバ-スモ-ル・ブライアン氏、松本和育氏)

【第1号議案、平成19年度事業報告書及び収支決算報告書】

月1回の割で行ったミ-ルミニコンサ-トは好評で定着してきている。県のボランティア基金の助
成を受けて実施した(ミ-ルの音楽を施設の人たちに・全7回介護施設3、保育園3、野の花館
1)演奏会も大変喜ばれ、音楽は世代を超えてその心を癒すのだと痛感した事など報告され
アイルランド音楽の実施など例年より膨れた事業決算が承認されました。

【第2号議案、平成20年度事業計画書及び収支予算書について】

今年度は独立行政法人福祉医療機構(WAM)からの助成が内定していることを受けて、
野の花館“ふるさと”ふれあい子育て支援事業を中心に取り組みます。季節に1回舞台公演(ハ
レの日)、日常的(ケの日)に文化講座を6回開催して小中学生、青少年と高齢者との交流を
深めることで地域の子育てを応援します。好評のミ-ルコンサートも開きながら幅広い人たちに
野の花館のよさを感じてもらえるような活動をしていくことが承認されました。

(決算書、予算書、活動報告書、事業計画書などは別紙発行いたします。)

春合宿 2008・3 / 28 ~ 30 みやざき中央、一つ葉おやこ劇場 延べ25人参加



なかなか楽しかったです!!また来ます
長友美智

たのしかったです。ゆっくり寝れました。
また来るよ 長友千裕

めっち! たのしかったあ-。
忙しくなければまた来るぜ” 石川はるか

育児だより

* かんきつ姉弟 * 「東京は楽しかったのだ!!」の巻

金丸 智子

このGW前半、ちび 2 人の年齢をおしはかって、久々に東京に行ってきた。何故このタイミングかという、朔巳が 3 才になるから、まだ料金の発生しないうちに、ということ、現実とファンタジーの境目がないのが丁度良い、という理由で、年を越した頃より考え始め、決断してからは片っ端から仕事をこなす日々だった。

さて出発の日、私は朝から小学校の参観。2 人には行くことを全く伝えてないので、本当にバタバタした準備。まあ、何とか飛行機に乗れた。道中はドキドキの連続で、その嬉しそうな顔を見られて親は満足。生まれたてのいとこと対面、東京タワーからの展望、たくさん乗る電車……。そしてメインはディズニーランドとディズニーシー。千夏の子供っぽい気持ちがふくらんでいたのも、タイミングはバッチリ、ミッキーやミニーに会い、乗り物にいっぱい乗り、アリエルになって夢の世界にひたりまくった 3 日間だった。

で、計 5 日間の旅行だったが、何が一番残ったかって、それは朔巳の歩き。あの人ごみの中を、親の手をふりほどき彼の手は常に汽車のかまえて、道にある線に沿ってひたすら前進、更にあっちこっち見て進むもんだから、ぶつかってばかり。まあ、いいけどねえ……。;;よかったねえ、新幹線に乗れて、鉄道博物館にもいけて、母は君には参ったよ……。

* 夏勢・友樹兄弟 * (ちょっと番外編)

伊藤 美穂子

最近、うちの家のまわりに植木鉢が増えた。初めは、りんごの木が 3 鉢、実を食べた後、種を捨てるのがもったいなくて、蒔いてみたら芽がでて、細いながらもきれいな葉っぱの木になった。冬になると枯れ枝が鉢にささっているような風情ではあるが、春になるとちゃんと芽を出して、私達一家を喜ばしてくれる。冬に枯れてしまっているのではと、あまりに私が心配してりんごの木に声をかけていたら、横で見ていた次男の友樹が、何を思ったかエイヤッと鉢からひっこぬいてしまった。おかげで、根がしっかりと張って枯れていないことはわかった。危機感をもったのだろうか、春になり、そのひっこぬかれた木が一番最初に芽をつけ、葉を広げた。

たった 2 株しか植えてないけど、いちごのプランターもある。あまりにかわいくておいしそうな写真につられて買ってしまったのだ。

今までの失敗を反省して、肥料 2 種と、土とプランターも買った。そして長男の夏勢と、園芸の本を見たり、“いちごを育てる”がテーマのテレビを見たり、あーでもない、こーでもないかと相談しつつ、植えつけて見守った。成果は 3、4 日おきに小さいのが 2、3 個程度である。買ったときについていた説明と写真とはだいぶ違うが、とりあえず枯れず、しかも実がついていることに感動している。

野の花館ミニコンサ - ト番外編 2008年6月20日(金)18:00開場

三 - ル(稲田竜斗 & 稲田由香里デュオ)ヴァイオリン & ピアノ

大人 1500円 子ども 700円 おやこペア 2000円

* 家族便り *

大山磨佐恵

最近、小学生の二人がおかしい。落ち着きもなく、宿題をしないばかりか、ご近所に迷惑を掛けることが増えた。年度が変わりクラスの環境も変わった。私も仕事に行き、帰宅時に留守していることが多い。何より、博司と将司が頼りにしていた景子が中学に上がり、同じ生活時間ではなくなった。どれ一つとっても、彼らにはマイナスかも知れない。でも、与えられた環境の中で、それぞれ間違わずに自然に生きて欲しい。お父さんも、慣れない仕事を懸命に頑張っている。奈美も、新しい環境で、自分流の花を咲かせる努力をしている。それぞれが、それぞれの場所で、楽しめるように、お母さんはおいしいものを食べさせ、ゆっくり眠れるように心を向けたいと思う。

事務局日誌より

3/7(金) 野の花館だより47号発送

3/20(春分の日)15:00～ミールミニコンサ ト(続・ロシアの昼下がり)

3/27 (木)19:00～3月定例会

3/28～30 みやざき中央一つ葉おやこ劇場高学年合宿

4/18(金)18:30～第9期理事会・19:30～4月定例会

5/03(憲法記念日)第14回野の花館まつり

5/11(日)14:00～08年度定期総会

5/26(月)13:30～第3回高鍋町子育て応援フェステ実行委員会(健康づくりセンタ -)

これからの予定 6/7(土)10:00～郷土料理教室・6/20(金)ミールコンサート番外編

7/19(土)竹細工教室(水鉄砲で遊ぼう)・8/24(日)平和を考える集い108(月光の夏)木内里美

野の花館へのご支援感謝します!

2008年度分会費、寄附金をよせてくださったみなさまです。

(08/3・01～08・5・29受け入れの方々)[順不同、敬称は省略させていただきました]

五十嵐陽子、注連本三穂子、木下昌子、西都愛育幼稚園、奥津勝洋、井上清美、高橋裕子、千釜八重子、河原益見、平吉洵子、新城睦子、勝山袈人、S/K、竹嶋寛、道代、蓮野勇、遠田辰芳、野田直子、杉本和宏、杉谷洋子、松田くるみ、塩田幸代、重永重美、重永圭二郎、金谷久代、野津手医院、飯田悦子、藤原慶子、金丸京、平野伊津子、友成昌亮、林 真美、岡山 勇、池田育子、納富俊郎、井出泰子、佐賀百合子、野村健一、永山由美好、峰瑞枝、長友君子、川南幼稚園、冨田快子、佐藤登貴子、國生美奈子、十住ミツ子、石崎諭、春江、小柳由美、坂下実千代、則松久夫、美恵子、松本和育、石川弥生、みやざき中央、一つ葉おやこ劇場、伊藤美穂子、岡田心平、金子信吾、本田醇子、成田真理、上野節子、隈元三枝子、田村光弘、田村直美、小森邦子、岩切三代子、松丸まき子、藤田規子、テイモシイ・ジョー・ジ、佐藤真市、マリ子、北川義男、

ご意見ご感想ご質問などお寄せください。

宛先: 特定非営利活動法人 野の花館

〒884-0002 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 2664

phone & fax: 0983-23-0701

ちょっと装いを変えてみました。いかがでしょうか?

郷土料理と郷土文化について皆様の思いもお寄せください。お待ちしております。